

3月24号

めばえ



担当

教育委員会社会教育課
生涯学習係 協田久美
☎0997-72-2905

「人生は選択の連続である」

へき地保育所

子どもが自分で自分の問題を解決できると思えるようになるには、自尊心と倫理観、そして自らの力を信じる気持ちが必要です。その力を育てるには、責任を与え、決断する能力を鍛えることが役立ちます。決断する術をうまく教える方法として、まず子どもに判断させ、それに対して評価を下すことなく導いてやり、自らの決断が招く結果を通して成長させてあげましょう。失敗しても、まずい選択をしても、子ども自身の責任です。その選択で傷ついたり、困ったりしても、本人が前向きに取り組んではじめて解決できるのです。子ども自身がその事態の当事者として動くことにより、気高い心や倫理観、そして自尊心が育っていくのです。

『子どもに変化を起こす 簡単な習慣』引用 著者：バーバラ・コロローソ

自分の意志で何かを選びとることができるようになるのは、おおむね2歳の頃からだそうです。園児に、好きな色のマジックを聞いてみると、何度聞いても同じ色を選んでいきます。しっかりと意思決定ができていますね。

この時期は自己主張がいつそう強まり、「第一反抗期」の真っ只中。大人の手伝いを欲する時もあるけれど、何でも自分でやろうと『自分で～』と言ってきます。大人の決めたことに従って行動させようとしても、なかなかうまくいかないことばかり。そこで、自分で選択できる声かけを試みる。「どうしたいの?」「着たい服は?」など選択させてみる。子どもの意思を尊重してあげると、自分は受け入れられているという安心感が持て、自信にも繋がっていく。子どもの判断が明らかに間違っているときや、年齢を重ねて重要な決めごとの時は、まだまだ持っている情報量が少なく、選択肢も少ないので、そこは大人が持っている情報を提供し、選択肢を広げていく。

小さい頃から、予め決められたことに従って行動させるのではなく、『自分で決める』を習慣づける。

日頃は、ほとんどが選択をしようと思って選択をしているわけではなく、無意識のうちに小さな判断を繰り返している。そのため、気づかないうちについつい楽な方を選択してしまうことも。その結果、現状に不満を感じてしまう。

「勉強しないとイケないのに…」→「遊びを選択」、「部屋が散らかったまま」→「掃除しないことを選択」、「ダイエットしたいのに…」→「つい食べ過ぎてしまう」、「貯金したいのに…」→「欲しいものを買ってしまう」

今の自分の状況は、自分が選択してきたことの結果であるということ。日々の判断の一つ一つが『今の自分』を形成している。

今回の投稿にあたって、日々行っている無意識のうちに決断していることへの大切さにも気づかされました。

4月の担当者

地域女性団体連絡協議会です。

